

研究テーマ:読解力を向上させるための指導と工夫

所属 高知県立安芸高等学校

氏名 竹崎 誕子

R G S H 4

【アクション・リサーチ】

1 研究の背景

1年生から担当している3年文理科クラス(男子9名、女子12名 計21名)を対象にアクション・リサーチを行った。このクラスはほぼ全員が国公立大学への進学を希望しており、他のクラスと比べると学習意欲は高い。しかしながら、英語を得意とする生徒は10分の1程度で、基礎力が不十分な生徒も多く、自ら予習してこようという意欲のある生徒は少ない。

今回、センター試験に向けて苦手な分野をアンケートで調べてみた結果、「長文読解」と答えた生徒が3分の1と一番多かったため、このテーマを設定した。

2 リサーチ・クエスチョン

どうやって読解力を向上させることができるか。

3 予備調査

(1)授業観察

授業には集中して取り組んでいるが、小テストや授業の予習・復習といった家庭学習にはやや消極的である。解答を言われるまで待っていたり、与えられた課題を提出しなかったりといった、英語をもうあきらめているような生徒が何名か見られる。

(2)生徒の英語学習意識

最も不得意と感じている分野	長文読解	7名	発音・アクセント	1名
	文法・語法	5名	会話文	1名
	英作文	4名	和訳	1名
	記入なし	2名		

(3)英語力を示すデータ

○設問別の得点率

図表読解	50.6%
会話文読解	43.8%
長文読解	36.9%

4 仮説の設定

- (1)単語テストを定期的に行うことにより、語彙力が増え、読解力が向上するのではないかな。
- (2)単語テストを継続的に行うことにより、語彙に対する意識が高まるのではないかな。
- (3)全訳や細部の文法・構文にこだわらず、ポイントだけを意識するようになれば、読むスピードがあがるのではないかな。

5 計画の実践

- (1) 週1回SHの後で単語テキスト「V 単語4500」(福島書店)による単語テストを行った。問題は全て文章内で使われている単語の意味を問う問題で、範囲10ページ70語程度の中から20語を出題した。
- (2) 授業で扱う長文を範囲として、日本語から英語、英語から日本語へ直す形式で単語テストを行った。毎授業、開始と同時に口頭で10語出題し、後で単語帳として利用できるようにノートに記入させた。
- (3) 長文を扱う授業では、実際に読む(解く)順序で英文を解説し、文法や構文の説明は必要最小限にとどめた。授業終了後、全文の訳を配布し、(2)の単語テスト対策とした。

6 実践の結果

○設問別得点率

	6月	9月	11月	11月末
図表読解	44.9	74.0	78.9	43.4
会話文読解	40.3	51.3	45.3	40.0
長文読解	35.8	47.1	44.9	45.7

7 結果の検証

- (1) (2) 単語テストを継続して行ったが、テストに向けて家庭学習をしていた生徒はクラスの4分の1程度で、残りの生徒は十分に取組ができなかった。それは、ほとんどの生徒が語彙力不足のために長文読解が弱いと口では言っているものの、実感として捉えていないためではないかと思う。単語テストを実施したことに関してだけでは、長文読解力の向上につながらなかったようには感じられない。
- (3) 授業の進め方を変え、細部まで説明しないことによって、全訳が分からなくても問題を解くことができるという意識が出てきた。普段問題に取りかかる際に、同じような手順で解く生徒も数名おり、全体的に長文を読むスピードは少しではあるが速くなったようである。しかし、特に力を入れて説明したその月のテストでは効果が表れているが、しばらく時間が経つとその読解力も下がるという結果が出ている。単語と同様、慣れた後にも継続的に触れていくことが必要である。

8 成果と今後の課題

1学期は語彙を増やすこと、2学期は速読の力を向上させることを目標に取り組んできた。

語彙を増やすことに関しては、このクラスでも数回ペアワークを行ったが、多くの生徒には単語を定着させるのにテストを定期的に行うだけでは足りず、楽しく、知らず知らずに覚えているような活動も必要であると思う。ただ、毎時間小テストを行うことで、休み時間を利用して単語を覚えたり、自主的に単語テキストで勉強したりする生徒が見られ始め、語彙に対する意識はある程度高まったのではないだろうか。

また、速読の力を向上させることに関しては、一定のスピードを上げることはできても、「的確」に英文を読むという意味では、やはり語彙でつまづいてしまい、達成感を感じるもの(=得点)には結びつかないことが多くあった。これからは自由英作文やスピーチなど、自分で英語を書く機会を増やし、その中で使った表現や単語から覚えさせたり、ペアワークなどの効果的に集中力をアップできる活動を考えたりして、授業で活用していきたいと思う。

今回、このアクション・リサーチを行うことで、思うような取組はできなかったが、自分の授業を振り返り、目の前の生徒をもう一度見つめなおすことができた。これからも意識的に授業改善に取り組んでいきたいと思う。